

オオミスジ

Neptis alwina (Bremer et Grey)

チョウ目タテハチョウ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

観察数が減少している。

形態

開張70mm程の中型種。翅表は黒色の地に数本の白い帯が入り、裏面は地色が褐色に置き換わる。類似種の中では最も大きい。

国内分布

北海道と本州に分布し、伊吹山脈が西南限になっている。

県内分布

小松市、白山市、金沢市において山間地の集落周辺で観察されている。

生態

山間地の集落周辺で栽培されているウメの木の周辺を飛び回る個体が、6月中旬から8月にかけて観察されている。食樹はウメ、アンズ、スモモなどである。幼虫越冬で、食樹の樹幹や小枝の分岐で行われる。

生息地の条件

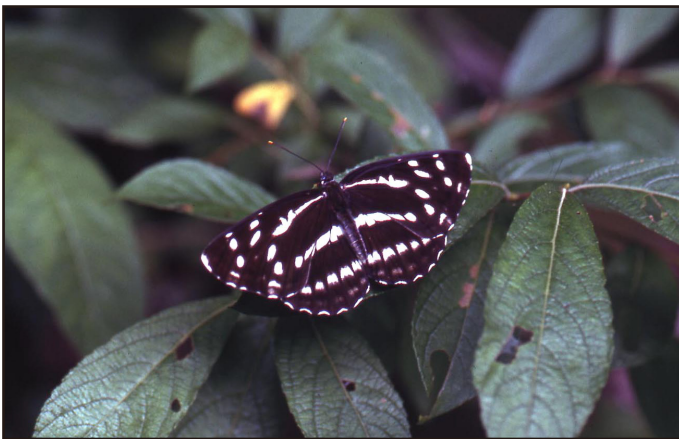
農薬を使わず適度に管理されたウメなどの食樹の存在が必要と思われる。

生存の危機

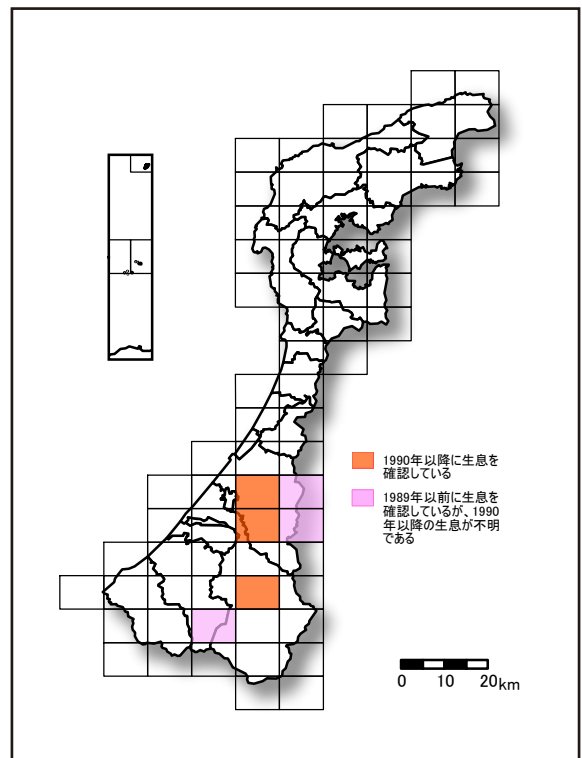
過疎や荒廃によって、山間地集落周辺のウメ、アンズ、スモモなどが、食樹として利用できなくなったことが原因と思われる。(A, B)

参考文献

福田晴夫ほか 1983. オオミスジ. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅱ): 159-163. 保育社. 大阪.



写真提供者: 竹谷宏二



県内の分布